

# 特許紹介

第 27 卷 第 3 號 昭和 16 年 3 月

## 廣軌狹軌連環運轉自働伸縮車輛裝置

(特許第 139434 號 特許權者 鐵道建設院 外 1 名)

此の發明は、簡易なる機構に依つて車輛をして廣軌並に狹軌間に自働的に移來せしめ得るやうにしたものである。

## 石綿セメント管製造機

(特許第 139453 號 發明者 野中常俊 外 1 名 特許權者 日本高麗パイプ株式会社)

製作中、管の厚さの増加に従ひ、適應する壓力を自働的に調整適用し、平滑強靱なる石綿セメント管を迅速容易に製造し得るやう考案を施したものである。

## 石綿セメント管製造機

(特許第 139495 號 發明者 野中常俊 外 1 名 特許權者 日本高麗パイプ株式会社)

芯管の挿脱自働的にして、工程を簡易ならしめ、原料の冗費を除き得るやう考案を施したものである。

## 極寒時に於ける建築物の築造法

(特許第 139515 號 特許權者 西宮安太郎)

(1) 極寒時に於て建築物の基礎及壁體をコンクリートブロックを以て累積築造し、各ブロック間にはセメントと乾砂とを混合せる乾モルタルを充填し、壁體の氣密性を圖り、乾材料を用ひて屋根を覆ひ、外氣の侵入を遮斷し、暖房に依り屋内氣温を上昇せしめて屋内工事の施工を容易にし、

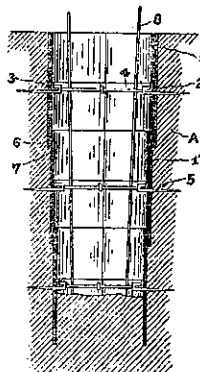
(2) 解氷期に至り、壁體面に設けたる注水孔より水濕を與へて、前記乾モルタルを硬化せしめて壁體の強化を計るやうにする方法である。

## 堅坑を掘鑿する方法

(特許第 139527 號 發明者 木田保造 特許權者 木田保太郎)

之は特許第 107308 號を改良したもので、其の追加が特許發明である。(a) 波形薄板にて適宜に井筒子 (I) を構成し、其の下端剪斷力を利用して地層を切斷しつゝ地中に適宜に下降せしめ、内部中央迄の土砂を掘鑿除去し、井筒子を其の中央に於て整形輪 (4) と共に外接地殻にピン (3) に依り定着し、(b) 次に別の次層井筒子 (I') を上層井筒子 (I) を定規として其の上縁部が上層井筒子の下縁部と合致する迄自動下降させ、内部中

圖-1.



央迄の土砂を掘鑿除去し、井筒子を其の中央に於て整形輪と共に外接地殻に定着せしめ、(c) 以下順次此の操作を繰返し井筒を構成する方法である (圖-1)。

井筒子の定着を其の中部に於て爲す爲に、原發明が之を上下兩端に近く行ふものに比し、内部土砂を上半部のみ掘鑿すれば、井筒子を外接地殻に定着し得べく、又内部に残る土砂によつて、井筒子の方へ内の崩解を防止し得べき利點がある。

## 土壤凝固劑製造法

(特許第 139463 號 特許權者 川西文夫)

土壤と混練して之を強固に且つ迅速に硬化せしむる凝固劑の製造方法に係る發明である。その方法は、水に生石灰を加へ、加熱して得た溶液に鹽化マグネシウムを混和せるものを主劑として、之に珪酸白土又は珪藻土及び松脂並に珪酸粉の各溶液を混和するのである。生石灰は乳化劑として、又鹽化マグネシウムは龜裂を防ぐと同時に硬化劑として働き、兩者相俟つて土壤の急速凝固を促し、又珪酸白土は施工の場合強硬感を與へざるやう作用せしめ、尙松脂並に珪酸粉の溶液は夫々結合力を増大せしめるやう混入せしめたものである。

## 釘

(特許第 139563 號 發明者 小山榮二 天野良久 特許權者 荒木五郎)

材料を節約して反動又は振動等に依り、弛緩逸脱する事なきやう考案したものである。即ち頭部に所謂釘頭として普通用ふるフランジを省略し、2 個以上の凸條 (B) を以て頭部を錐形に擴大構成し、全部之を木材中に打込まるとし、凸條に施した凹缺 (C) (又は輕微なる螺旋狀屈曲) を與へる事に依り、之を木材の内部木質に緊着し、凸條頭部の錐形擴大と、其の全面に喰ひ込み密着する木質自體の抵抗とにより、一旦打込まれたる以上は容易に弛緩逸脱する事なからしめたものである (圖-2, 3)。

圖-2. 側面圖



圖-3. 平面圖



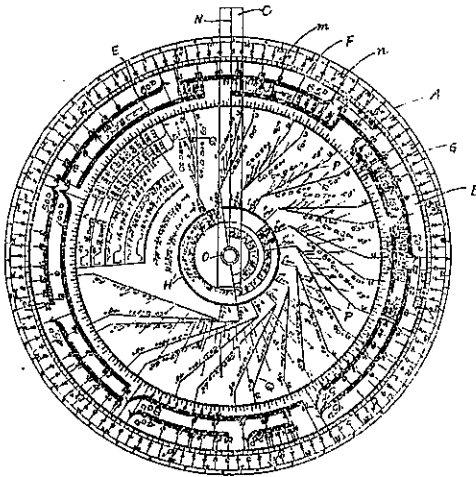
## 鐵筋實施寸法計算尺

(特許第 139593 號 發明者 福島政吉 特許權者 株式会社清水組)

鐵筋コンクリートの基礎梁等に用ゐる各種形狀の質

施寸法を簡単に機械的に算出し得て、従来の煩雑なる計算手数を省略し得るやうに考案した計算尺である(圖-4)。その構造は圖中(A)は薄き圓盤狀の寸法指示尺、(B)は之より直径の稍小なる回轉定數加算尺、(C)はカーソルを示す。

圖-4.

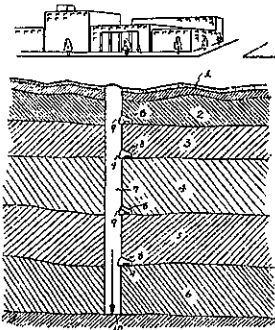


地震動測定方法

(特許第 128899 號 特許權者)  
(發明者) 木田隆太郎

建造物基礎構造物の耐震構造及び土地の補強等の施工を爲すに當り、必要なる地層各部に於ける電動状態を簡易なる方法に依り測定せんとするもの。即ち地表任意の個所から地下に向つて堅坑を掘鑿し、各地層毎に微動

圖-5.



計(9)を設置し坑底に螺環又は重錘を以て震動衝率を與へ、地層の各階に及ぼす波動を夫々の微動計に記録するやうにするものである(圖-5)。

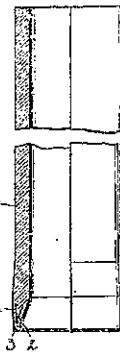
(附) 登録實用新案

基礎井筒

(第 291498 號 公告 15 年 第 9652 號)  
(考案者 (實用新案提供者) 木村文左衛門)

コンクリート製井筒體(1)の端口(2)縁に之と同形の鋼鉄鋅製環狀端口金物(3)を之に定着せる取付鐵筋(4)にて、井筒體に下面を露出せしめて埋設したもので、従来の山形鋼を附したものに比し構造簡單使用材料僅少なる利點がある(圖-6)。

圖-6.



鐵筋コンクリート製矢板

(第 301761 號 公告 15 年 第 6788 號)  
(考案者 (實用新案提供者) 箱村正造)

圖-7 に示す如き雄型矢板(2)と雌型矢板(5)とを組合せたもので、之を多數使用して土止め又は水止めの壁體を構成するもので、其の各々の形状簡單にし構造比較的堅牢なるの特徴がある(圖-7)。

圖-7.

